

山域	佐渡					山行形態	小屋泊縦走					
日程・コース	天気：1日目 晴れ											
	<アクセス> 各自前泊又は夜行バスにて移動、新潟港へ集合6:00発→（フェリー）→8:30両津港着→（マイクロバス）→9:25和木登山口											
	<行動> 9:40出発→10:06檀特山（だんとくやま）→11:08和木山→11:50金剛山（こんごうせん）12:20→13:07雪畑山→13:50滑石→15:00芝尻山→15:27論天山→16:04尻立山→16:30ドンデン山荘、19:00夕食19:45→19:50反省会22:00、就寝											
メンバー	天気：2日目 曇り時々晴れ											
	<行動> 6:15朝食6:45→準備→7:30出発→9:25マトネ9:36→9:59石花越分岐→11:10真砂の峰11:18→12:02天狗の休場12:42→13:40あやめ池→14:17金北山山頂14:34→16:02白雲台											
	<復路> 16:30白雲台→（バス）→17:09両津港17:55→（ジェットfoil）→19:09新潟港→（車）→19:30新潟駅、新幹線にて帰京											
メンバー	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別
	1	新井 梓	女	2	廣岡 正敏	男	3	白川 梓	女	4	稲吉久美子	女
	5	杉本 美香	女	6			7			8		
	9			10			11			12		
	13			14			15			16		
	17			18			19			20		
	リーダー	新井 梓			サブリーダー	廣岡 正敏			その他	気象:杉本 医療:稲吉 記録:白川		
特記事項 ・その他、1日目は越後YOUTH（玉木、知野、小根山）と行動。 2日目は、越後支部（松野、伊豆野）、他会（5名）も加わり合計15名。2つに班を分けて行動。 ・沢筋には残雪あり。金北山直下の急斜面の残雪部分にはトラロープ設置済。												
ヒヤリハット												
その他 ・島には熊、猪、鹿は生息していないとのこと。 ・クロサンショウウオのたまごを見つけた。大きかった。												

新井さん

菅名岳・弥彦山、西蒲三山に続く越後支部交流企画は、今回も越後支部の玉木さん、知野さんに何から何までお世話になりました。心より感謝します。

佐渡の花は5月が良いという話は耳にしていたましたが、和木登山口から金北山を経て白雲台まで歩き、その種類の豊富さや株の多さに驚きました。想像を、はるかに超えて、山地全体が貴重な植物の宝庫といった感じ。シラネアオイやカタクリ、スミレ数種の群落、満開のオオイワカガミ、ショウジョウバカマ、ニリンソウ、ユキワリソウ、エンレイソウ、サンカヨウ、ザゼンソウ、などが、最初から最後まで登山道の両脇を彩ります。

南アルプスや北海道などで、花で知られた山にも行ったけれど、佐渡の登山道は比較にならないほどでした。

花だけではなく、和木の天然杉の不思議な形状、尾根の両脇に見下ろす日本海、黒山椒魚の卵、青ネバ、赤ネバといったユニークな地質、皇室の領地を管轄する御料局時代の三角点、巨大アンテナが次々と現れて、見どころもたくさん。

さらには、そうした登山道を、越後支部や他会のベテラン勢とご一緒させていただいたことで、山行の面白さが何倍にも膨らみました。玉木さんが楽しく盛り上げてくださり、知野さんには山菜の食べ方を、佐渡トレッキング協議会の塚本会長や佐渡メンバーの伊豆野さんには、終始花の名前や特徴を教えていただきました。

久しぶりの大人数登山。ユース世代の方とも交流させていただき、今後もまた交流山行をしましょう、と話しました。

このご縁を生かし、今後も支部との交流を行いたいと思います。

廣岡さん

佐渡最高。なぜもっと早く来ていなかったかと悔やまれる。

大学時代は1000mそこそこの佐渡の山には全く興味が湧かなかった。

いざ来てみると花の楽園。登山口から下山まで花の途切れる瞬間がない。

今回見た花を書き連ねると感想が書ききれなくなるのでやめる。

また、スミレをここまで真剣に観察したことはなかった。

塚本さん教えていただき有難うございました。

土産にフキみそと特上味噌を買って帰りました。

今回は非常に穏やかな気候であったが、横倒しの木々や半身に葉の無い杉、1000mに満たない標高とは思えない植生に佐渡の自然の厳しさを感じた。

惜しむらくは一泊で帰らざるを得なかった点。

山だけでなくもっといろいろ楽しみたかった。

酒蔵も5つあるのに全く飲めず。

越後支部および佐渡山岳会の皆様。本当にお世話になりました。

また時期を変えて訪れたいです。

杉本さん

綺麗な景色を見たり、花を楽しみながら歩くのが好きな私にとっては、佐渡は是非とも行ってみたい場所の一つでした。
噂に聞いていた花の佐渡は、想像以上に多くの花々を見ることができ、そこそこにお花畑が広がっていました。写真に入りきらない天然杉の迫力だったり、縦走だけではない多くの楽しみがプラスされた、何とも贅沢な山行でした。
お天気は低気圧と高気圧のせめぎ合いといった微妙な感じで、もしかしたら雨が降るかとかヤキモキしましたが、結果、山行中に雨に当たることはなく、日差し控えめで風も穏やかななか、気持ちよく歩くことができました。
度々現れる開放的で足元フカフカの平原に癒され、休憩時にはゼリー、シュークリーム、飴、柿シャーベット、キュウリ味噌、甘酒など、次々出てくるおやつに元気が出ました。
越後支部の皆様にはいつも温かいおもてなしをいただき、今回は佐渡の皆様とも御一緒できて地元の方ならではのお話も聞くことができ、とても楽しかったです。
今回の企画を立ててくださった新井さんはじめ、宿や交通の予約を取っていただいたり、新潟駅～フェリー乗り場間を車に乗せていただいたり、本当にお世話になりました。
初日は同じように見えていたスマレが、2日目に違いを教えていただいて少し分かるようになったり、ナツウダイなどの初めて見るお花に出会えたことも、とても嬉しかったです。
楽しい山行となりましたこと、皆様に心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。

稲吉さん

初めての支部との交流山行に参加させていただきました。夜行バスにて新潟駅に到着するなり越後支部の知野さんが間髪入れずお迎えに来てくださり、フェリー乗り場に着けば越後支部 YOUTH 委員長の玉木さんが流れるようにフェリーへの誘導、乗船後も玉木さんによるフェリー内部ツアーと楽しいお話と怒涛のホスピタリティにまみれ「え？いきなりこのペースで歓迎していただいて終盤息切れなされないのかしら？」と疑問に思いましたが、驚くべきことに最後の最後まで手厚くおもてなししていただき感無量でした。
肝心の山行はというと、初日は玉木さんによるプロフェッショナルなご案内と、知野さんによる食べられる野草解説に加えて周りの空気がキラキラ光を放つほどの小根山さんの明るさで終始ワイワイと楽しい時間をこれまた右を向いても左を向いても花花花で見どころもたくさんありすぎて最終的にはカタクリがモブキャラになってしまうような大忙しな道中となりました。
翌日には佐渡トレッキング協議会会長という塚本さんによる花の詳しい解説と佐渡登山道の整備もされているという佐渡のことを隅々まで知り尽くした重鎮の方々と共に歩くという大変贅沢な山行の中、数えきれないほどの花はもちろんのことただの葉ですら触ってみるとさまざまな香りがするということを知り、その中でも特に夏に花を咲かせるという「イブキジャコウソウ」の香りに魅了されてしまい見かけるたびに手を擦り付けていました。
こんな贅沢なメンバーで登山ができたことは一生の思い出となりました。越後支部の皆さまには感謝しかございません。またお会いできる日がとても楽しみです。

白川

新潟の山を歩いていると海の向こうに見える佐渡。
ずっと気になっていたところやっとな機会に恵まれ、また越後 YOUTH や佐渡の方と交流できるということで、とても楽しみでした。
大佐渡の山は、予想以上に深く、大きく、自然豊かで、中でも特筆すべきはお花でした。種類も多く、のびのびと咲いていて、写真を撮る手が止まりませんでした。また、山菜について勉強できたのも収穫でした。ゆくゆくは自分で見つけて見分けられるようになりたいです。
今回、初めて越後 YOUTH や佐渡在住の先輩方と山を一緒させて頂きましたが、皆さんお話が面白く、良い方ばかり。植物についても博識な方が多く、道端のひとつひとつの草木を丁寧に説明して下さり、手帳にメモしたお花の名前は一日で優に40は超えました。
また、縦走の途中、佐渡山岳会の方達が中心となり、縦走路のトラロープを張り直したり、落とし物や置いていかれたゴミを回収したり、トレイルを安全にすべく倒木の撤去について相談をしたりしている姿を見ることができ、更に尊敬の気持ちでいっぱいになりました。
厚いおもてなしを終始して下さった玉木さん、知野さん、小根山さん、佐渡の山の先輩方、企画の発案から取りまとめまでして下さった新井さん始め同行して下さった WV 部メンバーのおかげで楽しい2日間を過ごすことができました。
また一緒させて頂けると嬉しいです。ありがとうございました。



フェリー内にて打ち合わせ



四天王杉にて



開放的な稜線



ドンデン山荘から出発



シラネオアオイの群生



金北山山頂にて



金北山直下の雪溪